〔普及の現場から〕
農家ミーティングやってみませんか？

岡山農業普及指導センター

１．酪農経営支援チームが活動中！

平成 20 年度に、おかやま酪農業協同組合を中心とした畜産関係機関による酪農経営支援チームが結成され、現在各地域で活動を行っています。今回はその一環として、岡山管内で今年から実施されている「農家ミーティング」についてご紹介したいと思います。

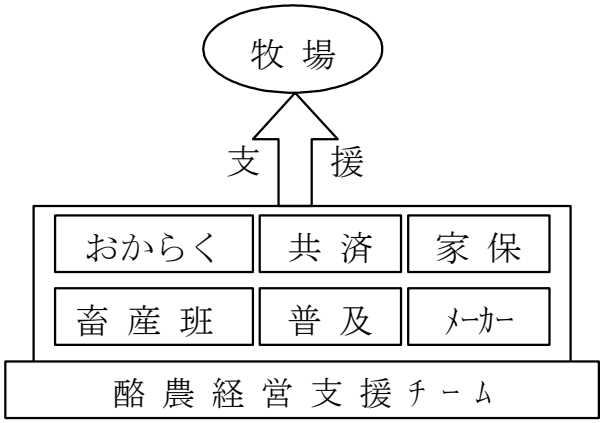

図１　酪農経営支援チームの支援体制

２．「指導」ではなく「支援」

「勉強しなさい！」と小さい頃に親から言われた記憶はありませんか？

大ヒット作「リング」の著者で子育て作家としても有名な鈴木光司氏がテレビ番組の中で「勉強しなさい！と言って勉強する子はいません。」と言われていました。

現場においても同様なことが言えるかもしれません。「前搾りはちゃんとやりなさい！」、「こんな作業動線にしなさい！」、「糞尿処理はちゃんとやりなさい！」。分かっていても、頭ごなしに言われるとついカッとなったり、やる気をなくしたりします。

私たち岡山管内の経営支援チームでは①牧場主導、②関係者は会話の潤滑油をモットーに、牧場の皆さんの話をよく聴き、牧場の方々が自ら考え、実行するプロセスを「農家ミーティング」という形で支援しています。

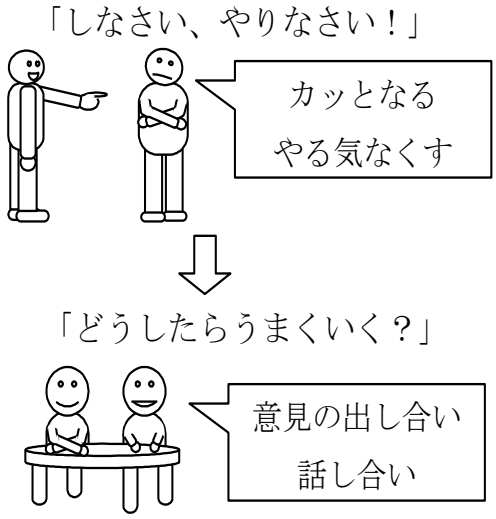

図２　まずは話を聴くことから！

３．農家ミーティングとは何か？

農家ミーティングとは、企業でいう「経営会議」と同様なものです。月１回～２ヶ月に１回、牧場に従事する全ての人と第三者（中立的な立場）が参加し、現在の牧場経営および飼養管理状況と今後の経営方針について話し合う会議です。

期待できる効果は①牧場みんなの意見がまとまる、②牧場内の情報や方針をみんなで共有できることです。つまり「私は知ら～ん」、「面倒くさいから言わなくていいか」、「言っただろうが！」といった牧場内でのコミニュケーションのすれ違いがミーティングを行うことでなくなります。

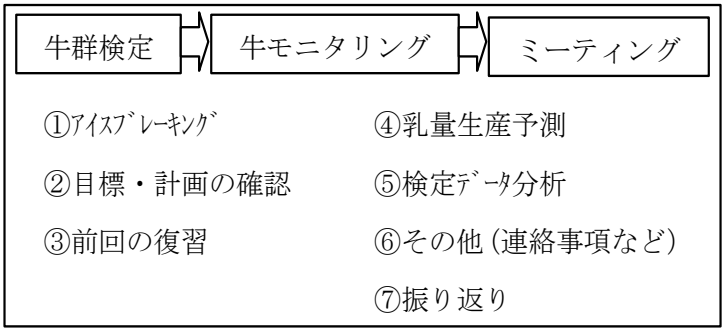

図３　農家ミーティングの流れ

４．実際のミーティング事例

Ａ牧場は家族４人で経営を行っています。重点対象として様々な指導が行われてきましたが、その成果もむなしく、ある種「さじを投げられかけた」牧場であったように感じます。

この牧場で第２回目の農家ミーティングを１２月に行いました。参加者は家族４人、おか酪、県民局畜産班、普及センター、全酪連、友人の農家の総勢９名で、ミーティングの流れ・ルールに沿って、支援チーム員が農家の意見を引き出す形で進行しました。

農家の意識の変化は突然あらわれます。第１回目には「誰々が～」、「政策が～」など、一種「自分以外が問題」という流れで進んでいましたが、第２回目では「乳房炎や蹄病、労働時間における問題解決の糸口は、良質な戻し堆肥を作ることにある。どうやって作っていこう？」と発展的な意見が多数出され、早速牧場と町の堆肥センターを併用した良質戻し堆肥づくりへと話が展開していきました。家族４人に「良質戻し堆肥→乳房炎や蹄病、糞尿処理にかかる労働時間が減る→乳量増、診療費減→所得や家族で過ごす時間が増えて笑顔になる」という共通認識が形成された瞬間でもありました。

写真１　農家ミーティングの状況

写真２　話し合った内容は最後に復習し、振り返りへ

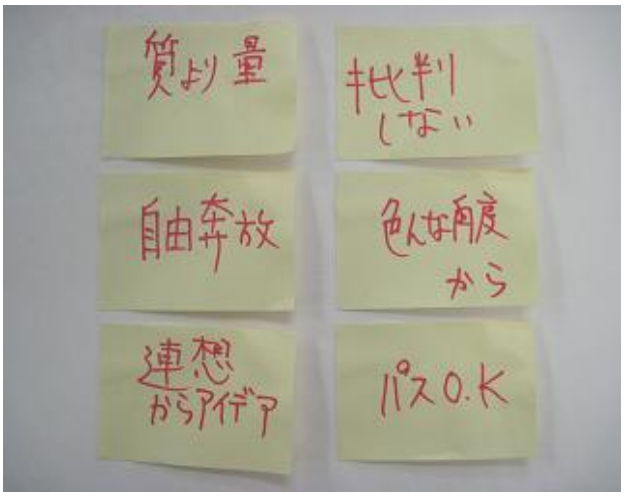

写真３　ミーティングのルール

５．来年度こんなことをやります！

岡山農業普及指導センターでは来年度重点課題「若手酪農家の支援システム構築、及び、酪農和牛複合経営への移行サポート体制の確立」の一環として農家ミーティング希望農家を募集中です

牧場内で意見がまとまらず苦慮している経営主の皆さん、旦那が聞き耳を持たずにいつも喧嘩になる奥さん、親が自分の考えを認めてくれないと悩んでいる後継者の方々、ぜひ「農家ミーティングやってみたいんだけど」と声をおかけ下さい。必ず経営にとってプラスになると私たちは信じています。